

# コミュニティ 佐潟だより



— 平成25年 新年号 —

## 新年のご挨拶

新春を寿ぎ、地域の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎える事とお慶び申し上げます。

昨年は、自然災害に見舞われた大変な一年でありました。冬の豪雪に始まり、爆弾低気圧による暴風雨から夏の猛暑から残暑に至るまで、農作物をはじめ色々な分野で被害を受け、皆様の生活にも多少なりとも影響のあったことと思います。そういった昨年度の経験も踏まえて、「自主防災」という視点をより一層意識し、地域の安全度アップを目指すよう、諸団体と連携し行政の支援も仰ぎながら推進してまいります。

当地域内の今の状況を十分にご理解いただいた上で、皆様一人一人のご協力を改めてお願い申し上げます、この新しい年がより佳き年になるよう心より祈念いたします、年頭の挨拶とさせていただきます。

会長 石黒伸夫



## 赤塚郷ゆかりの文人展

「地元の人たちに地域の魅力を知ってほしい」そんな思いで実行委員会が組織され、去る12月9日、メイワサンピアにて『赤塚郷ゆかりの文人展』（コミュニティ佐潟共催）が開かれた。実行委員諸氏が各家々を回り、お蔵入りしていた作品を発掘し、一年間の準備を経ての開催となった。強風雪中、約400名が来場しお宝を熱心に見入っていた。

越佐文人研究会の岡村鉄琴氏（新潟大学准教授）も調査に加わり、展示会当日は「赤塚郷ゆかりの書画分析」と題し講演会を開催。祖父が赤塚地内のお出で松野尾に親戚があったという会津八一が当地に滞在した軌跡を通して、地元文人との交流にも話が及んだ。八一が行った良寛めぐりに纏わり、良寛の遺墨数点も公開。

岡村氏は「今回作品発掘を行った事で、有名人の陰にかくれた地元の文人を知りえた。一軒で20～30本の作品を所有したケースもあり、北国街道沿いのコレクションとして価値が高い」と講演を結んだ。

「天候が良ければもっと大勢の人達から、この素晴らしい逸品の数々を見ていただけたのに残念」と語る実行委員の斉藤敏夫さん。

展示会は当日のみであったが、展示品80点と、それ以外の作品を合わせて300点を収めた図録名作集を販売しています。郷土の遺産（宝）として、是非お買い求めください。

「赤塚郷ゆかりの文人集」A4判 3,000円  
問い合わせ先… 西区みずぎ野 飯田素州様  
025-239-2466





# — 上手な医者のかかり方 —

西地区公民館主催 (コミ協共催)

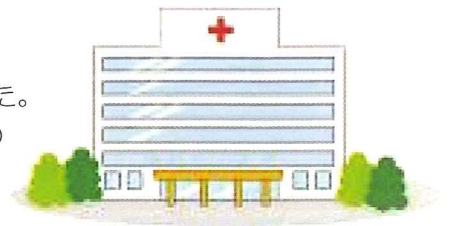
11月29日(木)赤塚連絡所において、「上手な医者のかかり方」講演会が開催された。新潟市民病院副院長 新田幸壽先生を講師にお招きし、「日本の医療費」「日本の医療水準」についてお話をいただき、日本の医療は世界一であるという話でその理由は、

- ・平均寿命の高さ、乳児死亡の低さ
- ・医療費が極めて安く、高度医療を提供
- ・高い公平性、フリーアクセスが保たれている という点である。

続いて、「地域医療」「医療機関の役割分担」についてお話いただき「新潟市民病院の役割」「地域医療連携による患者のメリット」へと続いた。

最後に「上手な医者のかかり方」ということで一番大事なことは、「医者と患者もいろいろなタイプがあります。人間同士ですから“合う合わない”が必ずある。合う医者を見つけること、そして不明な点などあれば解るまで医者に聞くことが大事」であるということでした。

講演後、参加者からは積極的に質問をいただき、来年もまた開催してほしいとの要望もあり、地域医療への関心の高さが伺えた。



## 団体紹介

### 新潟西交通安全協会 赤塚支部

支部長 滝沢和彦 (役員数 15名)

#### 設立の目的

新潟西交通安全協会の行う交通安全運動や交通事故防止運動に関する活動を赤塚支部管内自治で行い、交通安全及び交通事故防止に関する啓蒙活動で地域住民の交通安全の促進に寄与する。



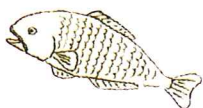
#### 主な活動内容として、

- 新入学1年生にランドセルカバーの贈呈
- 春・夏・秋の全国交通安全運動において街頭指導を支部管内自治で立哨
- 小学校自転車教室において安全指導への参加協力
- 支部管内自治道路のストップマークの塗り替え
- 年末交通事故防止運動への参加
- 年末飲酒運転防止ポスターの配布

## 編集後記

新年早々、寒い日が続いております。流行りのノロウイルスやインフルエンザにも充分気をつけ、健康な毎日をお過ごし下さい。

3月10日(日)に、毎年恒例の『佐潟冬まつり』の開催を予定しております。毎年好評の引き網漁体験や大人気のコイ汁に地場産野菜の販売、またコイ・フナの販売も行いますので、楽しみにお待ちください！



実施したが、作業開始後に雨や雷が強くなり一時間ほどで切り上げた。  
閉会式では赤塚中学二年の吉原和毅さんと木下侑美さんが、「これからも(地域のひと)潟普請を頑張りたい」と話した。世代をつなぐ地道な作業として潟普請作業を継続したい。



この催しを主催したのは佐潟クリーンアップ実行委員会(石黒伸夫実行委員長)。二日間で地元中学生、企業や団体、市民団体の協力を得て延べ百五人が保全活動に参加した。前日に刈り取った観察舎脇のヨシの回収と佐潟橋付近の「ドロ上げ」を二日目に



## 『第13回潟普請』

周辺住民105人保全活動に取組む

ラムサール条約湿地である佐潟の保全活動を推進しようと「潟普請・第十三回佐潟クリーンアップ活動」が九月二十二、二十三の両日、新潟市西区赤塚の佐潟で行われた。